
サヨナラの記憶探し ~ V S もう一つの存在 ~

比輪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

サヨナラの記憶探し ～VSもう一つの存在～

【Nコード】

N7725Z

【作者名】

比輪

【あらすじ】

サヨナラの記憶を探す事、それは辛く悲しく、そして暖かい思い出を取り戻せるものだった。彼女等はひたすらに欠片を集める。

全てのピースが揃った時に、又出会える事を願い。

そんな二つの記憶探しの、一辺の物語。

……
地球には、地球人の知らない所でもう一つの人類が存在した。
地球人は「もう一つの人類」の姿も見えなく、声もきけなく、触れる事も出来ない。

一方はお互いを知らない中、二つの「人」は何の変哲もなく、穏やかに共存していた。

地球人に、もう一つの人類が見える者が存在しなければ。

見える者の「チカラ」を巡る戦争が今始まる。

それはひっそり、誰も知らない所で起こる出会いと、別れ。

「もう一度、会いたい」その思いが紗枝を突き動かした。

プロローグ（前書き）

「別れ」を中心に書いていきますが、前半は段階の一つの「出会い」重視です。

徐々に心を許していく主人公をかけたらいいな、と思います。

戦闘シーン等を書くのは初めてで拙い文章に磨きがかかっています。

プロローグ

ふと咲枝は立ち止まった。

容赦なく吹き付ける風に、体を震わせる。

来ているコートの際間からは、我先にと冷気が入り込んだ。

(…………さむ…………)

冬の夜、それももう午前一時を回っている頃だ。

吐息は白く染まり、黒い闇にぼんやりと広がっては溶け消える。

その様を楽しむように紗枝が何度か意図的に息を吐いていると、

ふいに催促の声の上から降ってきた。

それは先程紗枝の耳に届き、足を止めさせた声と同一の物。

「…………ねえ」

「何だ私に言ってたんだ」

紗枝は上を見上げて、おどけた声色で笑う。

先程まで全速力で走っていたせいか、

汗で髪が肌引っ付いて鬱陶しい。

「自分に言われたの分かったからお前、止まった。……違つか」

億劫さが滲んだ美声で答える彼は、

酷く夜と不釣り合いな容姿をしていた。

青空を連想させる髪色に、遠目で解らないが黒ではないだろう光った目。

それらは整った顔立ちに似合ってはいるが、私から見ればコスプレだ。

格好もどこか浮きよ離れしていて、しかしだから人を引き付ける。

(まあ、見えないんだから引き付けるも何もないか)

紗枝以外に見えることのないだろうそれは、

全身真っ黒でいつそ不自然な程闇に溶け込んでいた。

電線に座っていた彼が、すたっと音を立て紗枝の目の前に着地する。

眠そうに細まる橙の黄玉のような瞳。

彼が電線に座っていた時は地上の紗枝とは距離があり過ぎて解らなかつたが、その瞳は夕焼け色だった。

「それで、私に何か用。あんた等が私達に関わっていいんだっけ」

「お前……そうか、そんな事まで知ってる」

口の端を上げて首をかしげた紗枝の言葉に
紗枝名称 あいつらの一人は驚いたように頷く。

「法律……そうある。でも、……一時それを無視していい権利が与え、……られた」

こくりこくりと今にも寝落ちしそうに彼が揺れる。どこか魅せられる目は、次第に重く閉じられていく。

「無視？ 何それ……」

彼が寝ないように紗枝は彼の頬をいっそ反射的に、ぺしぺしと叩いた。

触れてから「あいつら」に触れる事への戸惑いを感じ手を離す。

叩いたというが軽く何度か触れた、という感じの方がしっくりくる。

引っぱたいた訳じゃない。だから、そこまで驚かれるとは思っていない。

なかった。

手を離れた瞬間彼はぱっと目を開けて、頬に触れる紗枝の手を握る。頬に触れた時も感じたが、彼の体温はこの寒空の中温かく、掴まれた手はじんわり熱くなる。

「……………触れる事も……………」

握った紗枝の手に未確認生物でも見るような視線を落としながら、彼は呟いた。

「え」

彼が言った言葉が一瞬何の事だか解らず手を引っ込めようとする、案外に強い力で握り止められた。

「……………我等が見えるチカラを持った者を、保護する為に」

彼がそういった瞬間、一際強い風が吹き隣の木が上下にずれた。否、切れた。

ずん、と緑が地に付く所を凝視し、動けないまま紗枝は呟く。

「……………有り得ない」

プロローグ（後書き）

どうしてもだらだら長く…なるorz

自分で作ったのにめんどくさいひーろーとひるい…げほげほ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7725z/>

サヨナラの記憶探し ~VSもう一つの存在~

2011年12月25日02時49分発行